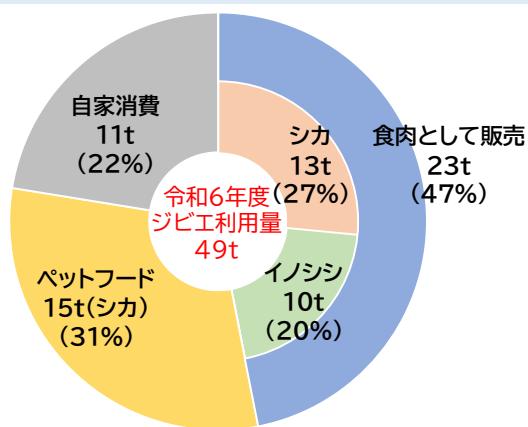


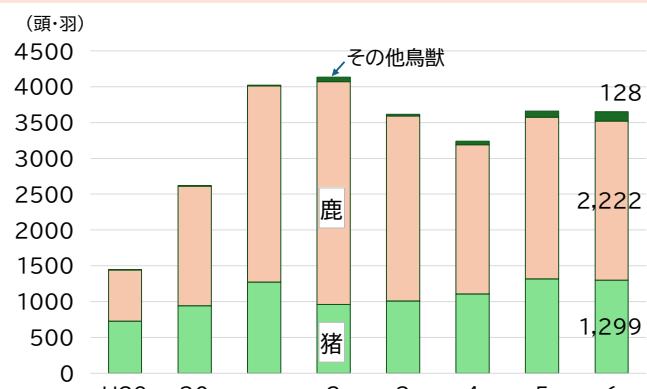
データで見る宮崎のジビエ!!

- ・宮崎県内の食肉処理施設が令和6年度に処理した野生鳥獣のジビエ利用量は49tで、うち食肉として販売したものは、シカが13t、イノシシが10tとなっています。また、シカのペットフードへの利用は15tと全体の31%を占めています。
- ・令和6年度の食肉処理施設の解体実績は、県全体で3,649頭・羽数(うちシカ2,222頭、イノシシ1,299頭)で、前年度に比べ0.3%減少しました。鳥獣種別ではシカが全体の約6割を占めています。

野生鳥獣のジビエ利用量（宮崎県）



食肉処理施設の解体実績（宮崎県）



資料：農林水産省「野生鳥獣資源利用実態調査結果」

令和6年度野生鳥獣資源利用実態調査

令和6年度食肉処理施設の稼働状況

年間稼働日数規模別施設数等

	食肉処理を行った施設数	50日以下	51~100	101~200	201日以上
		施設	施設	施設	施設
宮崎	29	12	7	7	3

ジビエ利用量、解体頭・羽数及び野生鳥獣を処理して得た金額の推移(宮崎)

区分	ジビエ利用量	解体頭・羽数	野生鳥獣を処理して得た金額	
			t	頭・羽
H.29	27	1,448	29	
30	22	2,615	37	
R.元	41	4,023	79	
2	40	4,132	49	
3	30	3,616	57	
4	41	3,241	68	
5	45	3,661	76	
6	49	3,649	71	

鳥獣種別の捕獲方法別解体頭・羽数

	イノシシ				シカ				その他鳥獣	
	小計	網	わな	銃器	小計	網	わな	銃器	小計	わな
宮崎	1,299	11	1,040	248	2,222	5	1,868	349	128	128

結果概要

令和6年度に食肉処理を行った施設数は、宮崎県全体で29施設、そのうち101~200日で稼働したのは7施設、201日以上は3施設でした。また、ジビエ利用量は、平成29年に27tであったものが、令和6年には49t(181%)へ増加しています。鳥獣種別の捕獲方法は、イノシシ、シカとともに「わな」が80%以上を占めています。